

# 1 理療教育における漢字の説明についての調査報告

理療教育部 飯塚 尚人

## 1 はじめに

漢字という特殊な視覚情報を扱う理療教育においては、同音異義をはじめとして、漢字の説明が不可欠であり、説明により漢字が正しく想起できることが望ましい。そこで、効果的な説明の方法に向けて、利用者・教官・音訳ボランティアを対象に調査を実施したのでここに報告する。

## 2 実態調査結果

昨年度、利用者 37 名（このうち、墨字が使えずデジターなどの音声教材や点字の「使用者」は 11 名）、センター理療教育部教官 26 名を対象とした結果、利用者は「経絡経穴概論」・「東洋医学概論」・「解剖学」で説明の必要性が高く、教官も含めて「想起しにくい場合」・「同音異義の場合」に必要性を感じていた。説明の方法としては、「使用者」を含めて利用者は「部首や構造」・「音読みや訓読み」・「熟語」による説明で高かった。

## 3 部首名の書き取りテストの調査結果

上記の結果をふまえ、本年度、利用者 18 名及び音訳ボランティア 18 名を対象に、同音異義の経穴の漢字の説明に用いる部首名の書き取りテストを実施した。その結果、「おおがい・さんづくり・ふるとり・まだれ・れっか」は、半数以上が正しく想起できなかった。

## 4 視覚障害者向けの漢字説明についての先行調査

特殊教育研究所の渡辺哲也氏らによる「スクリーンリーダの詳細読みによる漢字想起実験—成人を対象とした場合—」(電子情報通信学会論文誌 D-I, Vol. J89-D-I, No. 3, March 2006)では、正しく想起できない場合として「想起しにくい熟語」や「同音異字」「想起しにくい訓読み」を説明に用いた場合を挙げている。

## 5 新たな説明と既存の説明との比較

上記の結果をふまえ、同音異穴に用いる漢字を対象に、新たに説明を作成した（以下「説明案」とする）。これを、既存のスクリーンリーダの詳細読みや盲学校理療科用教科書の説明と比較するため、利用者 18 名（墨字が使用できない「使用者」5 名を含む）及び音訳ボランティア 18 名を対象に書き取りテストを実施した。その結果の一部を報告する。「顴」では、既存の「ほおぼね、かんこつのかん」という説明での正解者が利用者・ボランティア共に 0 に対して、説明案の「へのぶぶんは、うえから、くさかんむり、そのしたに、くちをよこにふたつならべ、そのしたに、すすむというじのつくり。つくりのぶぶんは、ページ」では、それぞれ 16(4)名・17 名であった。「・」では、既存の「ほねへんに、にかわの、つくり」という説明では、利用者は 8(1)名、ボランティア 10 名であったのに対して、説明案の「ほねへんに、つくりのぶぶんは、うえから、はね、そのしたにしんさつの、しんの、つくり」では、共に全員正解であった。

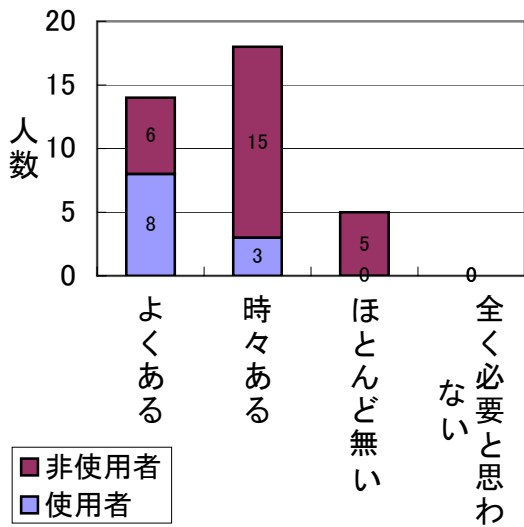
## 6 おわりに

部首や構造の説明が利用者には効果的であること、またその際の説明には必ずしも部首名を用いては正しく想起できないので、場合によっては想起しやすい漢字のへん・つくり・かんむりなどを用いて説明できることが示唆された。

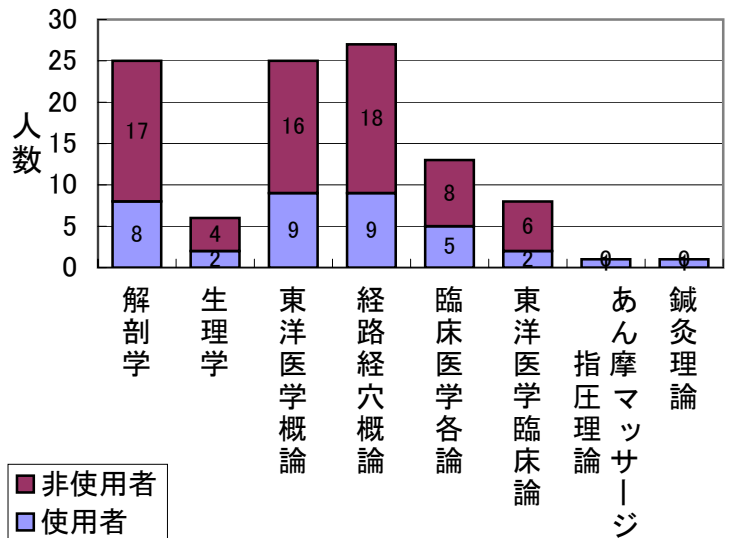
同音異穴に用いる漢字の説明に関する書き取りテストの結果  
 利用者18名（このうち墨字が使用できない者5名）、音訳ボランティア18名の正解者数

漢字	既存の説明	利用者 正解者数	ボランティア 正解者数
	説明案		
箕	みの、たけかんむりに、だimeiしのそれ	7 (2)	10
	たけかんむりのしたに、がっきまつ、きの、へん	18	18
懸	かける、いっしょうけんめいのけん	7 (1)	9
	とどうふけんの、けんのみぎに、ぎんがけいの、けい、そのしたに ころ	17 (4)	18
釐	おさめるの、いみの、り	0	0
	ほうかごのほうの、へんを、みらいの、みにかえ、そのしたにれきしの、れきの、なかを、さとにかえる。	15 (4)	17
觀	ほおぼね、かんこつのかん	0	0
	へんのぶぶんは、うえから、くさかんむり、そのしたに、くちをよこにふたつならべ、そのしたに、すすむというじのつくり	16 (4)	17
觀	ほねへんに、にかわの、つくり	10 (1)	11
	ほねへんに、つくりのぶぶんは、うえから、ほね、そのしたにしんさつの、しんの、つくり	18	18
照	てる、しょうめいの、しょう	15 (2)	16
	しょうわの、しょうのしたに、てんを よつつ	18	18
扶	ふようかぞくのふ	12 (2)	15
	てへんに、おっと	18	18
衝	つく、しょうとつ、しょう	11 (2)	12
	ぎんこうの、こうのあいだに、おもい、たいじゅうの、じゅう	18	18
穀	から、こくもつ、こく	8 (0)	9
	やくしょの、やくの、へんのぶぶんを、うえから、ぶしの、し、そのしたに、かたかなの、わ、そのしたに、のぎへん	16 (4)	17
容	ないようの、よう	16 (4)	18
	うかんむりのしたに、たに	18	18
綱	つな	12 (2)	13
	いとへんに、おかやまの、おか	17 (4)	18

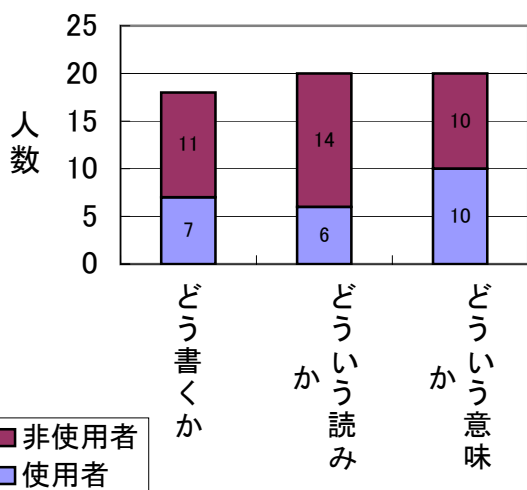
問1: 漢字説明を必要と思うか



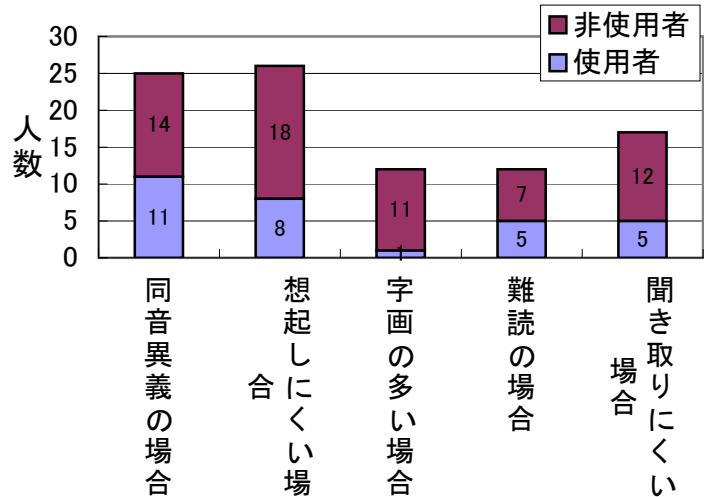
問2: 特に必要と思う科目



問3: どういう説明を必要とするか



問4: どんな場合に説明が必要か



問5: 漢字の説明でどんな説明が必要か

